長野県
民俗の会通信
第313号

○継承する便所の年取り・正月行事・節分……板橋　春夫
○自治組織「記録簿」の変化……三石　稔
○潮沢紀行……倉石あつ子
○令和七年度総会の概要報告

継承する便所の年取り・正月行事　節分

板橋　春夫

二〇二六年一月十五日、長野県阿南町新野の雪祭り見学後に勝野傳夫家を訪ねた。サイホウ（幸法）を見た後はサイホウ（採訪）である。先客が私たちの訪問を先触れしてくれた。その人は『新野の年中行事』（DVD）の監修者櫻井弘人さんであった。毎年勝野家を訪問しているという。このDVD映像と解説書は、櫻井さんと勝野さんとの深い交流と信頼によって作成された年中行事記録である。挨拶を済ませて炬燵に入ると、正月だからとお酒を勧められた。飲酒できるのは私だけだったので恐縮しながら頂戴する。グラスの酒が少しでも空けばすぐに継ぎ足してくれる。私たちは突然の小正月訪問者であり、新野の九十翁に歓待された。私はグラスを片手に聞き書きを進めた。お酒と豊かな伝承によって、二人の民俗学者の前で質問していることをすっかり忘れていた。

新野にお住まいの勝野傳夫さんは、八月の誕生日が来れば満九十一歳である。今年の正月飾りは勝野さんが一人で作った（写真1）。

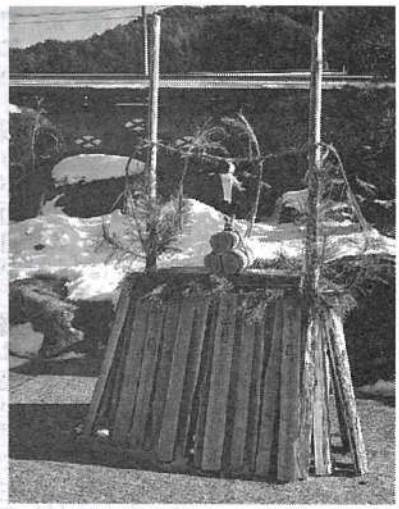
写真1　勝野家の正月飾り

息子さんは仕事で忙しく手伝えなかったという。見事な飾り付けであると思う。トシガミサマの方角を確認し、その方角の山から松を伐る習わしであった。数年前から作業がしやすいヒノキを使っているという。今年のトシガミサマの方角は南南東である。冬至が済んでから十二月二十八日までの大安の日に伐ることになっていた。手元の『令和七年神宮館家庭暦』で調べると、十二月二十六日が大安であった。二〇二六年の場合は二十七日になる。伐ってきた松はトシガミサマの方角に注意し家の周りに置いておいた。二十八日に門松を立て、新藁の注連縄を飾った。ここまではたいていの家で行う新野地方の正月飾りであろう。

勝野家では、他家がやっていない行事を大晦日と小正月の二回行っている。それが「便所の年取り」である。勝野家の家族は外便所の前に敷いたゴザの上にすわって「便所の年取り」行事を行う。二膳用意し、一膳は便所神様に供え、もう一つの膳のご飯を家族が一口ずつ食べる。倉石あつ子さんが長野県史の調査『新野民俗誌稿』（一九七九年）で報告した事例は勝野家であった。その報告は、昭和五十三年（一九七八）に倉石さんが勝野さんから聞いたものであり、勝野さんは「この時は女性の倉石先生が調べに来て、大切な行事だから続けてくださいと言われた」と語る。さらに国学院大学の倉石忠彦先生が来たので、中断することなく五〇年も続いているという。私が「家族中でやるのですね」と確認すると、勝野さんは「今年は三人でやった」とぽつりと答えた。

勝野家の書棚に、倉石あつ子さんが分担執筆した『民俗学がわかる事典』（一九九九年）が置いてあった。この本には、勝野家の便所

長野県民俗の会通信三一三号
二〇二六年五月一日
会費年額　五、〇〇〇円
長野県民俗の会
振　替　〇〇五二〇―三―一三六五七
長野県民俗の会
E-mail : info@nagano-minzoku.chu.jp
URL : http://nagano-minzoku.chu.jp/